

レジリエントな社会の構築に向けて

竹内 英（文部科学省研究開発局 地震・防災研究課長）



文部科学省研究開発局地震・防災研究課長の竹内英氏は冒頭のあいさつで、「本年（2018年）も地震、台風、豪雨により多くの尊い命が失われました。また、甚大な物的被害、経済被害も発生しており、日本の防災・減災力を向上させ、組織や個人の安全・安心を確保するレジリエントな社会の構築が急務となっています」と述べました。

また首都圏におけるレジリエントな社会の構築に向け「デ活では、レジリエントな社会を実現するために皆さまとの連携を強化し、その成果を社会実装に結び付けていくことが重要。組織や企業の防災力、ひいては首都圏の防災力が飛躍的に高まるよう、防災関係の皆さまとの協力関係を今後とも強化していくとともに、本日の議論が有意義なものとなることを祈念します」と述べました。